

## 令和2年度 学校評価

[各校の重点取組について]

・学力向上を図る。・道徳教育を推進する。・信頼される学校をつくる。・勤務時間の適正化を図る。

### 学校教育に関する重点取組

	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
<b>1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力の育成と健やかな体づくりに取り組む</b>	2.9	2.5
(1) 授業改善の取組を促進するとともに、家庭との連携により、学力向上を推進する (2) 特別支援教育の取組を充実させ、自立や社会参加に向けた主体性を育成する (3) 食育を通して生活改善の取組を促進し、望ましい生活習慣を育成する (4) 体育・スポーツ活動の取組を促進し、体力・運動能力の向上を図る		
取組とその成果	課題と改善策	
①スタディサブリを活用した家庭学習の充実を図る。 ②ユニバーサルデザインの考えを取り入れた全ての生徒にわかりやすい授業づくり、環境づくりを推進する。 ③家庭科の授業を中心に、教育活動全体を通して、食に関する知識を身に付けさせるとともに、実生活における望ましい「食」を考えさせる。 ④保健体育科や運動系のクラブ活動を通して、体育やスポーツの楽しさを味わわせる。また、心身ともに健康に生きることの大切さについて知らせ、実生活においてその実践を図ることができるようにする。	①第3学年を中心に終礼時等も活用して家庭学習ノートの実践をすすめている。今後は家庭学習等においても自分の学習を振り返り強化すべき内容を重点的に、かつ、粘り強く取り組む態度の育成をめざす必要がある。 ②多くの教員が視覚的に捉える授業づくりを実践しており、今後はさらに、誰もがわかる授業をめざし、研究を進めていく必要がある。 ③家庭科の教員が中心となり食育を通して望ましい食生活について指導しているところである。また、次年度より開始される給食指導によりさらに食育を進めていく予定である。 ④体育科の教員や部活動顧問が中心となり、生涯スポーツの観点から保健体育やクラブ活動において、心身ともに健康に生きることの大切さを伝えているところである。	
<b>2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る</b>	2.9	3
(1) 基本的な生活習慣確立の取組を促進し、心身共に健全な育成を図る (2) 道徳性育成の取組を促進し、思いやりに満ちた人間関係及び社会とのかかわりづくりに努める (3) 各校のいじめ防止基本方針に基づき、誰もが過ごしやすい学校の環境づくりに努める (4) キャリア教育の取組を促進し、社会的自立に必要な能力を育成する		
取組とその成果	課題と改善策	
①本校学校生活の基本である『時を守り、場を清め、礼を正す』の徹底を図っていく。 ②道徳科の時数確保、質の向上、評価のあり方について研究し、思いやりの気持ちのある生徒を育む。 ③いじめの未然防止・早期発見・早期対応等について、本校の『いじめ防止基本方針』に照らして組織的な対応を図る。 ④キャリア教育教材『エナジード』を活用し、自己の生き方についてみつめ直す。また、学級活動、体験活動、進路学習等を通じて、夢や目標を持ち、それに向かって進むことのできる力の育成を図る。	①学校生活の基本は、あらゆる場面において啓発しており、全ての教員が共通理解の下、引き続き根気強く指導を行っていく必要がある。 ②35時間の確保と内容項目22項目の実践を図るとともに、コロナ禍にあっても人を思いやる気持ちの醸成を推進しているところである。 ③生徒指導委員会やいじめ対応チームが中心となり、未然防止、早期発見を図るとともに、いじめ事案に真摯に向き合い、生徒や保護者の気持ちに寄り添った対応を図っている。 ④教職員は、進路指導を含めたキャリア教育の視点を持ちながら行事や授業等の取り組みを行っているところである。	

<b>3 家庭・地域・学校の連携を深め、活力に満ちた学校園づくりに取り組む</b>	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	<b>2.8</b>	<b>2.5</b>
(1) 教職員の資質向上の取組を促進し、業務改善を進めながら学校の組織力及び教育水準の向上を図る (2) 地域の教育力を活用した取組を促進し、地域とともにある学校園づくりを推進する		
取組とその成果	課題と改善策	
①校内教科部会において教科目標、個人において個人目標を年度当初に設定し授業研究を行う。年度末には教科・個人の達成状況を振り返り次年度への課題を設定する。 ②週1回の定時退勤日、各自で設定するMy定時退勤日を設定し、計画的な業務の遂行を図る。また、校内各委員会による組織的な教育活動を推進する。 ③PTA活動や学校行事等とおして保護者と学校の連携をより強固な関係にしていく。 ④小・中学校の児童会と生徒会が協力し、地域も巻き込んだ活動を展開する。	①すべての教職員は、個人目標の達成状況を自己点検し、それらを次年度への課題としている。 ②教務担当を中心に、組織的な業務改善を図っているところである。 ③今年度はコロナ禍により実施できなかったが、次年度においてはPTA地域部が中心となった授業中の見守り(週2回)や地域の行事における安全指導を推進していく。 ④生徒会担当の教員が中心となり、児童会と生徒会が合同で取り組むべき課題を今後も検討していく。	

<b>4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る</b>	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	<b>2.9</b>	<b>2.5</b>
(1) 安全教育的取組を促進し、登下校及び学校園内の安全確保を図る (2) 防災教育的取組を促進し、危機管理能力の向上を図る		
取組とその成果	課題と改善策	
①自転車教室やスマートフォン等の講習会を実施し、自他の安全面に配慮できる生徒の育成を図る。 ②自らの命を守るため、学級活動や避難訓練等を通じて、津波や地震、火災等に対する防災・減災意識を高める。	①安全教育担当教員や生徒指導担当教員が中心となって、警察等、関係機関の協力を得て、自転車やスマートフォンの講習会を実施し、啓発を図っているところである。 ②防災担当教員が中心となって校内防災教育を推進するとともに、養護教諭が率先してコロナ等の感染予防への意識を高める取り組みを行っているところである。	

教育目標		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		2.8	2.5
(1) 教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 教育目標の具現化と指導の充実			
取組とその成果	課題と改善策		
①学校生活の基本である『時を守り、場を清め、礼を正す』を実践させ、落ち着いた学校生活を送らせる。 ②教科指導や生徒指導等、教職員の組織的な対応により、知・徳・体のバランスのとれた生きる力を育む教育活動を推進する。	①すべての教職員が学校生活の基本について、あらゆる場面において啓発しており、根気強く指導を行っているところである。 ②教科の授業や道徳科、総合的な学習の時間、クラブ活動など、学校のあらゆる場面において知・徳・体のバランスのとれた生きる力を育む教育活動を行っているところである。		

研究テーマ		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		2.8	3
(1) 研究テーマの達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 研究テーマの具現化と指導の充実			
取組とその成果	課題と改善策		
研究テーマ 「学びに向かう力」をはぐくむ教育活動の充実をめざして -ユニバーサル化を推進し、誰もが学びと向き合える指導- -考え議論する道徳科授業の発展- -未来に目を向け、自らの学びを活かす活動の充実- ①ICTの活用、ペアトークやグループ学習等の授業形態を図りながら、主体的な学習態度を育成する。 ②ユニバーサルデザインの考えを取り入れた授業づくりと環境整備を行う。 ③生徒が主体的に考え、議論する道徳科の授業研究を推進する。	①研究主任や情報教育担当教員が中心となって、ICTや視覚的な教材、興味を持たせる授業づくりを推進しているところであり、協働的に活動したり、一人で考えたりする時間を工夫している。 ②全ての教員は、上記①とともに、だれもが分かる授業をめざして日々、研究・実践しているところである。 ③キャリア教育を通して現在や将来の生き方について深く考えるとともに、道徳推進教師が中心となって、考え議論する道徳科授業づくりを工夫・研究しているところである。		

		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
取組とその成果	課題と改善策		